

編集 後記

今春のゴールデンウィーク以来、新型インフルエンザの出現により、「保健所」や「公衆衛生」の言葉がニュースにしばしば登場しています。感染症は、脅威が大きいことで国民の関心が集中しやすく、社会的防衛機能としての公衆衛生の社会的意義を国民が再認識する契機となりました。本号では、麻しんのサーベイランスについての論文が掲載されています。一方で、公衆衛生の活動はより個々人の生活に密着したものであり、地道な活動です。妊婦の喫煙と飲酒の調査、一人暮らし高齢者のセルフケアの課題についての研究は、生活を支えるための基礎資料であり、遺伝病に対するイメージの研究は健康教育の基礎となるデータが提示された研究です。健康・栄養関連指標と死亡率の関連についての研究は、都道府県単位での集団の特性を明らかにしたものであり、公衆衛生の基本となる分析方法を示しています。掲載された5本の論文の中には、現場からの投稿が含まれています。今後、現場からの投稿が増えることを期待しています。また、公衆衛生は実践の科学ですから、これらの論文が現場で生かされることを願っています。(佐伯和子)

次号予告 (第56巻・第10号)

原 著

地域高齢者のプロダクティブな活動への関与と well-being の関連……………岡本秀明
 特定高齢者の体力を把握するためのテストバッテリー……………清野 論, 他

資 料

健康づくりのための運動指針2006の認知状況と他の健康づくり施策の認知および人口統計学的変数との関連……………原田和弘, 他
 大分県内の一地方における2006/07年シーズンのインフルエンザ流行状況とワクチンの有効性に関する検討
 大分県佐伯市蒲江地域……………江藤孝史, 他

連 載

運動・身体活動と公衆衛生⁽¹⁹⁾……………内藤義彦
 わが国の結核対策の現状と課題⁽¹²⁾……………森 亨
 保健師助産師看護師法の改正と保健師教育の展望⁽²⁾……………岡村玲子